

Islamic Rates of Return and Conventional Interest Rates in Malaysian Deposit Market

新潟大学 伊藤隆康

マレーシアではアジアにおけるイスラム金融の拠点として、政府や中央銀行などが積極的なイスラム金融の振興策をとってきた。同国におけるイスラム預金のシェアは2000年には約5%程度であったが、2011年には約20%まで拡大している。また、同国ではイスラム金融を行う銀行は伝統的な銀行との競争が激しく、金融市場ではイスラム預金の収益率と通常(Conventional)預金の利率がそれぞれ提示されている。本稿の目的は、(1)イスラム預金の収益率と通常預金の利率の関係を分析する、(2)短期金融市場における指標金利であるKLIBOR(Kuala Lumpur Interbank Offered Rate)とイスラム預金の収益率、通常預金の利率を用いて金利形成を検証する、の2点である。

イスラム預金の収益率と通常預金の利率(1カ月物、3カ月物、6カ月物、12カ月物)は共変動しており、また、1カ月物においては、1対1の関係が確認できた。先行研究では、通常預金の利率がイスラム預金の収益率に一方的な影響を与えていた。しかし、本稿の分析では、イスラム預金の収益率と通常預金の利率は相互に影響を及ぼしあい、かつ、イスラム預金の収益率が通常預金の利率に与える影響の方が大きかった。KLIBORはイスラム預金の収益率や通常預金の利率と共変動していた。また、イスラム預金の収益率(1カ月物、3カ月物、6カ月物、12カ月物)は、KLIBORと1対1の関係にあった。イスラム預金の収益率や通常預金の利率(1カ月物、6カ月物、12カ月物)は、一方的にKLIBORに影響を及ぼしていた。3カ月物においては、相互に影響を及ぼしていた。

以上の結果から、マレーシアの預金市場は競争的であり、特に1カ月物の預金における競争がもっとも激しいと考えられる。また、イスラム預金の収益率と通常預金の収益率は、KLIBORとともに短期金融市場における金利を形成している。マレーシア政府などによるイスラム預金の振興策や2005年以降、預金市場におけるイスラム預金のシェアが著しく伸びていることと平仄を合わせる形で、イスラム預金の影響力が強まっていると推測できる。

Keywords : Islamic Finance, Deposit, Malaysia

JEL Classifications : E43, G10